



# 地域づくり計画書

卯麦地区

## 1. はじめに

卯麦地区は、対馬の中央部にある浅茅湾沿岸の上島に位置する集落です。

合併前の豊玉町の役場所在地であった仁位から一般県道唐崎岬線を車で5分程度西へ走ると到着します。42世帯99名（平成27年4月現在）が生活しています。

平成26年の唐崎岬線の開通により、中心地である仁位までの移動時間が激減し、病院への通院や、買い物等の生活の利便性が向上しました。

本地区のかつての、生業は真珠養殖で地区の活性化に寄与していましたが、真珠貝の病気による斃死や、世界的な経済不況の影響を受け、次第に衰退していき、現在はサラリーマンが多く、老人世帯が大半を占めています。

## 2. 人口と年齢構成 （平成27年4月現在）

対馬の他の集落と同様に、比例的に老人の占める割合が増え、居住者99名中60歳以上が48名とほぼ半数の状況であり、小学生以下の子供に至っては、わずか8名といった状況です。

年齢構成は、20歳未満11名、20歳～39歳以下7名、40歳～59歳以下25名、60歳代15名、70歳以上33名の構成となっています。65歳以上の高齢化率は41.0%で、対馬市（平成17年国勢調査26.2%）より、高い値を示しています。

世帯数は42世帯、1世帯当たり2.36人の構成で、65歳未満の一人世帯が6世帯、65歳以上の一人世帯が8世帯、65歳以上の二人世帯が3世帯であり、今後は独居の高齢者対策を講じることが喫緊の課題となっています。

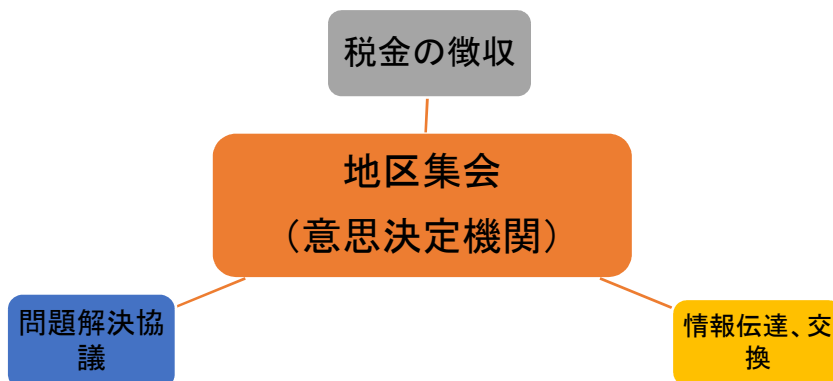
## 3. 地域の運営

卯麦地区の情報交換、地区の意思決定や連携を図る集会は毎月28日（12月は20日）に行われています。

税の徴収やリアルタイムで地域の問題等の解決策を協議しています。

3月末に旧区長から新区長へ引き継ぎが行われ、集落の除草作業等の清掃活動や和多都美神社古式大祭への参加（舟グロー等）、海岸清掃等が主な行事となっています。

その他、消防団によるお盆の精霊流し、集会施設・神社・寺等の恒常的に使用する施設の班割りによる清掃等を行っています。



## 卯麦地区の主な年中行事

月	行 事	月	行 事
4月	定例集会	10月	豊玉町スポーツ大会 定例集会
5月	定例集会	11月	糠嶽神社お祭り 荒神祭・定例集会
6月	糠嶽神社お祭り 定例集会（陳情事項協議）	12月	定例集会（下半期節期計算）
7月	定例集会（上半期節期計算）	1月	願解 新年祭 お寺参り 定例集会
8月	寺除草作業 施餓鬼 お盆合同供養 精霊流し 村清め・空き缶回収 定例集会		2月
9月	秋季彼岸合同供養 定例集会	3月	春季彼岸合同供養 定例集会

## 4. アンケート結果

あなたの地区への想いをお聞かせください！【アンケート版】

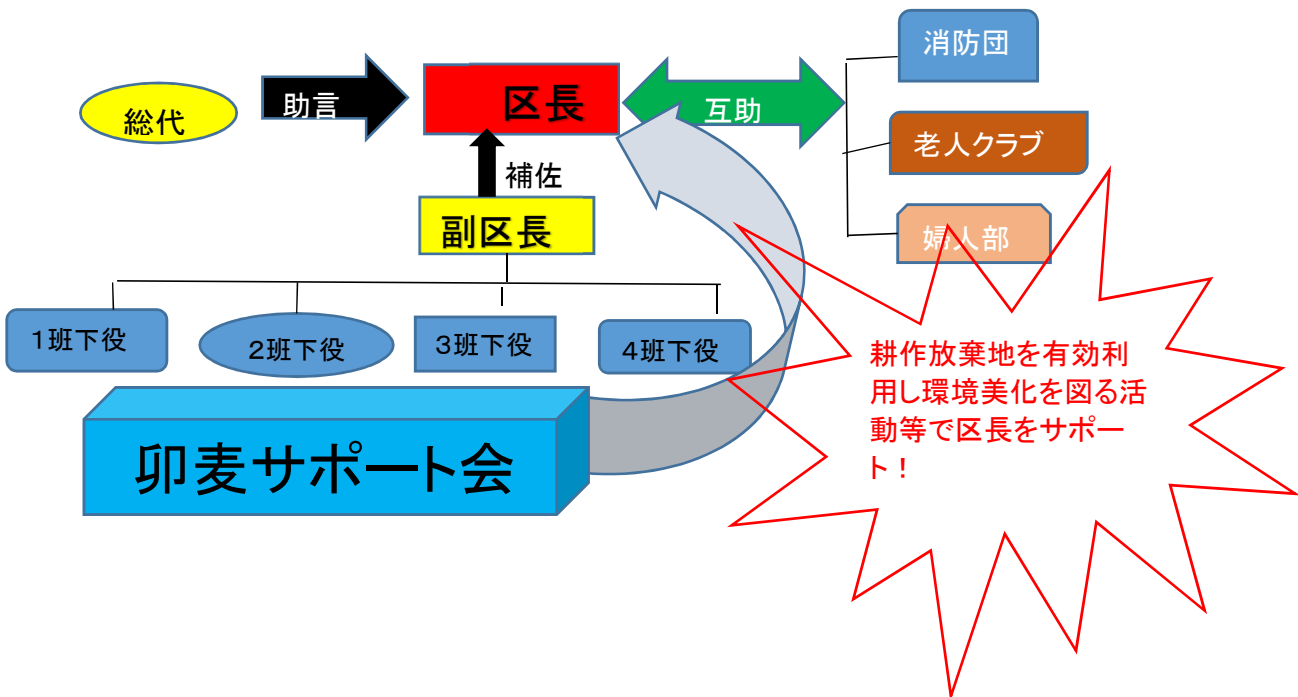
回答者属性 年齢、性別、職業	問1 選択肢	問1 記入欄 現在のわたしの地区の魅力・いいな と思うところ。	問2 選択肢	問2 記入欄 現在のわたしの地区のよくない・改 善したいと思うところ。	問3 記入欄 10年後のわたしの地区、こうなって ほしいなと思うことを自由にお聞 かせください。	問4 記入欄 10年後のわたしの地区、こうなっ たらいいなと思うことを自由にお聞 かせください。	その他
54歳 女 会社員		地域の清掃活動があり、大変だが協力 体制が整っている 日常は、人気がないが、お盆の精霊流 しでは、家庭に戻ってくる日が多く賑わ う		自分たちの楽しみ(GG)に熱中できるこ とは良いことだが、その熱心さを自然環 境に目を向け環境により行動んい力を 入れてもらいたい	若い人たちがいなくなること	各家庭でにぎやかな子どもの声が増え る地区になること	
33歳 男 会社員		住民同士のつながりがある		特になし	人がいなくなること	集落が賑わっていること	
66歳 男 無職		別になし		別になし	別になし	別になし	
79歳 男 無職		思いやりがある集落 GGで健康づくりができること		別になし	年金でも暮らしやすい集落づくり	安心して生活できる場所であってほし い	
72歳 男 無職		静かでのどかなところ 他の人に心配をかけるなところ		深夜に騒音を聴かせて車が走る 大雨で浸水する為水害をなくしてほしい	たくさん子ども達が帰ってきてほしい	別になし	
72歳 女 無職		別になし		わからない	別になし	別になし	
73歳 女 無職		毎月集会有り地区のコミュニケーションがと れている みんな協力的である		若者が少ない 働く場所がない	集落の消滅	昭和50年代のような活気ある集落	
71歳 男 農業		毎月集落があり地区民が集まること ころ		別になし	地区民が減少しない事	地区民が多くなること	
47歳 女 主婦		別になし		お店がないところ	集落の消滅	人口世帯数の増加	盆踊りの復活
53歳 男 事務職員		別になし		後継者不足 若者の働く場所がない	自治機能の低下	産業の活性化と若者の高額所得できる 職場の出現	
57歳 男 建設業		地区民がみんな仲良く活動できている ところ		別になし	人口が減ってほしくない	別になし	
61歳 女 真珠作業 員		のどかで、人々がのんびりしていること ころ		人が少なくなってきて、交流が少なくな ってきたところ	これ以上人が減ってほしくない	集落が賑やかになってほしい	
58歳 男 会社員		わかりません		別になし	世帯数・人数が少なくなってほしくない	人間がへらないこと	
65歳 男 真珠養殖 業		思いやりがあるところ お年寄りをいた わるところ		地区に子どもがほしい	若者が残ってほしい 戸数が減らない いでほしい	みんなが元気で暮らせて、生活できる 地区で会ってほしい	地区レクで交流を図る
72歳 女 無職		都会よりのんびり暮らせるところ 一人暮らしでも楽しく暮らせるところ		別になし	いまのままで十分です	このままがいいです	
82歳 女 無職		なれたこの地区がこのままでいい		別になし	若者がのこってほしい	若者がのこってほしい	このままでよい
62歳 男 無職		地区のまとまりがある 人々が優しい		別になし	老人社会	若者が残ってほしい	地区レクで交流を図る
61歳 男 会社員		一見まとまりがあるところ 月一度の集会有るところ		別になし	できれば人が増えてほしい 韓国人が増えてほしくない	若者が増えてほしい	みんなて農産物の育成と販 売
75歳 男 農業		月一度集会有るところ 老人のGGであまり楽しむところ		若干強制的なところ	働く場所がなくなってほしくない	独居老人対策の強化を図ること	動けない老人の敬老対策
43歳 男 公務員		思いつかない		特になし	人が減らないこと	働く場所の確保	みんなて交流すること



回答者属性 年齢、性別、職業	問1 記入欄 選択肢	問1 記入欄 現在のわたしの地区の魅力・いいな と思うところ。	問2 記入欄 選択肢	問2 記入欄 現在のわたしの地区のよくない・改 善したいと思うところ。	問3 記入欄	問3 記入欄 10年後のわたしの地区、こうなって ほしいなと思うことを自由にお聞 かせください。	問4 記入欄	問4 記入欄 10年後のわたしの地区、こうなっ たらいいなと思うことを自由にお聞 かせください。	その他
60歳 女 会社員		仲間でおーキングできるので楽しい		なにもない		人が減ること		仕事があったら子ども達が残るので職 場がほしい	
75歳 女 農業		老人がみんなで遊べる場所		渡海船がなくなってほしくない		別になし		別になし	みんなで遠足とか楽しみたい
84歳 女 無職		地区の皆さんが親切 老人を大切にしてくれるところ		お年寄りばかりで子ども達が少ない		住民が少なくなってほしくない		わからない	みんなで交流すること
75歳 男 無職		気軽に魚が釣れるところ		特になし		特になし		特になし	
73歳 女 無職		みんなと遊べる場所 この地をはなれ たくない		特になし		わからない		いままのまま、いろいろなことができ ることがさびしい	
83歳 女 無職		お節分け文化があり、日々農作物や海 産物など、物々交換で支え合えるところ		特になし		10年後も皆さんで支え合えたいと思 います		わからない	
66歳 女 自営業		お年寄りのスポーツが盛んなところ		道路の電気をもう少し増やしてほしい		特になし		人口が増える事	
47歳 女 作業員		いつもみんなが気にかけて、見ていて くれるところ 声を掛け合いながら安 心して生活できること		仕事がない為若者が減少すること		祭りなど、行事に参加するひとが減少 すること		若者が増えて、お年寄りが安心して暮 らしていけたらいいと思います	
38歳 男 自営業		神事・仏事を重んじる場所。神社、寺、 公民館などがよくなるように、整備をは かっているところ 老人クラブ・消防団など各世代の集まり を大切にしているところ 祭りには世代 を超えて協力しあうところ		収入源(例えば磯・むじきりなど)が全 くないので、地区運営によって多額の 費用がかかることができない 独居者が多く高齢者の一人暮らしが増 えている		構成世帯数が半減 地区・寺・神社の運営ができない 集落収入がなくなると、各世帯の負担 が増える		子どもの声があふれる 葬儀が減る→お祝い事が多い 祭りが残っている	益譲り・いのこ等伝統行事 の復活
63歳 男 会社員		昔ながらの規則を守りながら、現在の 社会にそったなかでお互い協力し自治 を行っているところ		特になし		人口減少によって子どもがいなくなり、 先祖の供養ができなくなる		人口増→若い世代の地区内定住を切 に願う	
83歳 男 農業		お節分け文化があり、日々農作物や海 産物など、物々交換で支え合えるところ 子ども達が祖父祖母に大事にされてい るところ		若い人が年々移住し、子どもが急速に 減少している		限界集落となり、地区に住めなくなる		観光客や出身者が集まること 健康な生活を保てること	隣接地区でもそれぞれ特徴 がある。地域づくりは、より 特徴を生かすこと

## 5. 自治組織

卯麦地区の組織は、区長、副区長1名、書記1名、下役と呼ばれる班の世話役4名、区長の相談役として総代2名、会計監査役2名で構成されます。  
他に、寺総代2名、神社総代3名、和多都美神社役員1名が選出されます。  
また、老人クラブ会長、消防支部団部長、婦人部の代表者がいます。  
そして、今般、地域の環境美化等に貢献する若手で組織された活動部隊であるサポート会が結成され活動中です。



## 卯麦サポート会の活動状況(休耕田にひまわりを播種し環境美化を図る)



播種状況



除草作業



開花状況

## 6. 地域の問題点

サポート会のメンバー間では、集落の将来を、他の集落と同様に不安視している者が少なくありません。

これまでは、「自分たちの生活の場は自分たちの手で」を基本に集落内の道路や河川、寺、神社等の除草作業等の環境維持や水害等の自然災害を未然に防止するための活動を、地域全員の参加で行ってきました。

しかしながら、近年の集落の構成員の高齢化や若者の都会への流出により、道ぶしん、川ぶしん等の道路・河川の維持管理を実施することなく現在に至っています。

このため、年々増加するゲリラ豪雨や大型台風等が襲来するたび、地域住民は不安な日々を過ごしています。独居の高齢者が特にそれを感じています。

また、かつてこの地区の基幹産業であった真珠養殖も、かつては10個の経営体がありましたが、経済不況不況や自然環境の変化、高齢化により、現在では2個の経営体に減少し就労の場所も激減し地域の人口は衰退の一途をたどっています。

今後は、安心安全な生活環境の確保と、安定した収入の得られる就労の場の確保が喫緊の課題であると、地域の定例会のたびに話が出てきますが、その解決策が見いだせない状況です。

## 7. 地域の将来(私たちの卯麦地区宣言)

何でもみんなで取り組む

「ふるさと」

地区を目指して

- 暮らし  
海（真珠等）を活用した生活力  
農地（耕作放棄地）を活用した生活力
- なりわい  
地産地消  
地域の旬な食材を提供するおもてなしの産業  
（椎茸 貝柱 牡蠣 タラの芽 野菜等）
- 学び 交流  
帰省者との情報交換会（正月・盆）  
伝統行事の復活・継承（盆踊り・いのこぶり・道ぶしん等）  
グランドゴルフ等による老若者の交流
- 風景 環境  
耕作放棄地の有効利用（果樹栽培・花園等）

当地域は毎月の集会を永年に渡り重んじてきた地域であり、それにより、みんなが集まり情報を交換し、話し合い連携して行動し、様々な問題を解決してきた既成の事実があります。

今後は、お年寄りに協力いただき、過去の知恵や体験等を伝授いただき、それを現代風にアレンジしたり、そのまま継承して、地域ぐるみで独自の生産活動をし、所得の増加を目指し、若者が地域に永住できるような地域を目指します。

そのために、現在、行っている事、行った事は、お盆の精霊流時の提灯により棧橋一帯をライトアップし、帰省の思い出となるようにしたり、お正月に帰省者との宴を設け、思い出話をしたり、都会の地方へのニーズの聞き取り等の情報交換を実施し、地域の活性化策を模索しています。

地域みんなが共に考え、語り、集い、汗を流しいつまでも明るく笑顔の絶えない歴史と伝統と自然を大切にする「卯麦集楽」を目指し、地域住民が一体となって活動します。





定例集会状況



基盤整備状況

## 8. 計画

当該地域は、自称「時々（ときとき）評議集落」と言っています。これは、問題が発生するとその都度都度協議決定し、解決できなければ決定事項を状況に応じて変更するからです。

毎月、集会を行うことから、長期的な展望、ビジョンがなく、「問題発生時に協議すればよい」という考え方が伝統的に続いて今日に至っています。

しかしながら、旧態依然のままでは、衰退の一途をたどるばかりであるため、長期的な計画を策定しました。

### 1. 防災事業

- ・ 豪雨時の卯麦川等の氾濫防止対策
- ・ 風水害、津波等時の安全な避難経路及び避難場所の整備及び確保

### 2. 基盤整備事業

- ・ 集落内の生活道路等の舗装や拡幅
- ・ 家屋背後の急傾斜地の落石防止のための法面整備
- ・ 用悪水路等の整備

### 3. 健康生活事業

- ・ グラウンドゴルフ場への健康器具設置

### 4. 生活習慣・相互扶助事業

- ・ 独居老人宅への声かけ

## 5. 娯楽・文化事業

- ・公民館を活用して卯麦四方山話（いまむかし）
- ・世代間交流の推進

## 6. 住民活動・自治体運動

- ・和多都美神社古式大祭の参加と活性化
- ・地域交流を目的としたイベント事業の拡充
- ・子育て世代が住みやすい集落の形成

## 9. 計画策定委員会名簿

策定委員（敬称略）

国分禎二  
小嶋博之  
阿比留正雄  
吉村三俊  
安田寿和  
吉村敏喜  
国分健晃  
平江俊哉  
波田安德